

# はちの医師会のついで

NO. 663

令和7年2・3月号

八戸市医師会

## 先哲特集号



巻頭言 保健所業務としての健康危機管理

(表紙題字：元八戸市医師会理事 小坂 康美)

# 目 次

表紙絵解説 .....	橋 京子 ...	2
☆巻頭言☆		
保健所業務としての健康危機管理 .....	立花 直樹 ...	3
☆先哲特集☆		
先哲慰霊祭 .....		5
古今八戸医家先人之霊 .....		7
巴 朝夫 巴 朝夫先生思い出話 .....	差波 司 ...	9
玉井 定美 玉井定美先生を偲ぶ .....	土井 三乙 ...	11
菅原 耕 菅原 耕先生の思い出 .....	菅原 健 ...	13
塚原 孝 塚原 孝先生の思い出 .....	菅原 英保 ...	14
鳥畑 鴻次 鳥畑鴻次先生の思い出 .....	船場 泰文 ...	16
西村 哲郎 父哲郎の思い出 .....	西村 哲也 ...	18
令和7年1月定例理事会 .....		21
令和7年2月定例理事会 .....		31
令和7年八戸市医師会新年互礼会 .....		49
令和6年に表彰された先生方 .....		55
受賞者のよろこび .....		56
☆学 術☆		
八戸精神科医会 .....		64
Hachinohe IMAGINE Project .....		65
第167回八戸糖尿病談話会 .....		66
八戸市医師会学校保健研修会・乳幼児保健講習会 .....		67
令和6年度第19回思春期問題連絡懇談会 .....		69
令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 .....		70
第72回日本職業・災害医学会学術大会 .....		75
第74回日本泌尿器科学会中部総会 .....		77
☆臨床検査・診療メモ☆ マイコプラズマ肺炎 .....		78
健康教室 .....		80
ドイツ留学思い出昔話51. 留学経験から派生した国際交流(3)		
(八戸日独協会の設立と運営) .....	橋本 功 ...	82
八戸市休日夜間急病診療所利用状況 .....		85
研修～リレー日誌～ .....	86・87・88・89・90	
会員消息 .....		92
事務局日誌メモ .....		93
行事予定 .....		94
編集後記 .....		94

## 表紙絵解説

像が雪のぬくもりに包まれているような珍しい光景に思わず目が行き、撮影した一枚です。

(橋 京子)

## 巻 頭 言

# 保健所業務としての健康危機管理

三戸地方保健所長

立 花 直 樹

はじめに自己紹介です。令和6（2024）年4月1日付で三戸地方保健所長を拝命しました。高校卒業以来50数年ぶりに八戸に戻ってきました。大学卒業後は県内外の病院で勤務、さらに約30年間青森県立中央病院に勤務し定年退職、その後ご縁があり青森県の行政医師（保健所医師）となりました。五所川原保健所に1年間、東地方保健所（東津軽郡を管轄）に4年間勤務し、昨年春の移動で三戸地方保健所勤務となりました。

さて保健所の業務は多岐にわたりますが、今回は最近特に注目されている“健康危機管理”について考えてみます。健康危機とは「国民の生命及び健康に重大な影響を与える恐れがある疾病のまん延その他の公衆衛生上重大な危害が生じる又は生じる恐れがある緊急の事態（地域保健法令和4年12月改正）」と定義されています。災害・健康危機の種類としては自然災害（風水害、地震、津波、火山、感染症など）や人為災害（航空機・船舶・列車事故、原子力事故など）、他に原因不明の健康危機、環境汚染などがあります。

最近日本で起こっている事象を振り返ってみると、東日本大震災、熊本地震、各地の豪雨災害、昨年の能登半島地震など大きな自然災害が頻発しています。また2009年の新型インフルエンザの世界的流行、そして2020年から今日まで続いている新型コロナウイルス感染症のまん延など私たちの生活を直撃する事象が次々と起こっています。この中で特に保健所業務への影響が大きかったのが新型コロナウイルス感染症です。我々の想定を超える事態となり、保健所もこれまで経験したことがない対応を迫られました。既存の組織体制では対応できず、全庁挙げて組織横断的な体制に組み替えました。また圧倒的な人員不足に陥り、外部からの人的支援も導入しました。ただ当時はまだ適切な人的支援の方法・内容も十分検討されていませんでした。

医療の分野では東日本大震災を契機としてDMATが組織され、その後DPAT、JMATなどのチームが災害現場（主に自然災害被災地）に迅

速に介入するシステムが構築されてきましたが、行政の分野では対応が遅れがちでした。それでも最近はDHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）やIHEAT（感染症のまん延等の健康危機が発生した場合に地域の保健師等の専門職が保健所等の業務を支援する仕組み）などのチームを適切なタイミングで被災地や保健所に派遣するシステムが整いつつあります。

健康危機管理に対応するために国では平成13年に「地域健康危機管理ガイドライン」を策定しましたが、今回の新型コロナを踏まえて地域保健法が改正されたことを受け、ガイドラインの改定が進められています。私も所属している全国保健所長会では「地域健康危機ガイドライン（改定案）」を作成中です。平時・危機移行期・危機における対応方法やリスク評価・リスクコミュニケーション・ICTの活用など健康危機管理における最近の考え方を導入した内容になるようです。このガイドラインを参考として保健所は「健康危機対処計画」を策定することになります。

県のレベルでは、「新型インフルエンザ等対策青森県行動計画」の改定作業を進めています。青森県として今回の新型コロナ対応の検証で挙げられた課題を反映した内容となっています。保健所業務についても多々課題が見つかったので、人材育成・業務体制整備・DXの推進等を強力に押し進めていくこととなります。

自然災害や感染症まん延等に対する健康危機管理を行うには、地域の医療機関の皆様との連携・情報共有・協力が非常に重要になってきます。有事になってから対応するのではなく平時からの協力関係構築が不可欠だと思います。現代社会ではICTを活用したDX化が急ピッチで進められていますが、最後に頼れるのはやはり人間関係ではないでしょうか。医師会の皆様とは今後も顔の見える関係・連携を大切にしながら保健所としての業務を進めていきたいと思っていますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。